校長室だより
～なかまとともにのびよう～

令和6年2月1日号　校長　高橋　義浩

スピーチコンテスト

１月20日（土）に、松原市商工会議所　大会議室において、「第73回社会を明るくする運動　小学生・中学生による　第9回スピーチコンテスト」が開催されました（主催：社会を明るくする運動　松原地区推進委員会）。

天美小学校からは、代表として6年生１組後藤　瑞稀さんが出場しました。後藤さんは、「「社会を明るくするために」という題名で、6年生が総合的な学習で取り組んだ「ピースプロジェクト（6年生での平和学習）」を通じて感じた、普段何気なく使っている「お礼の言葉」「ありがとう」の大切さなどについてスピーチを行いました。

そして、見事「松原市教育委員会　教育長賞」を受賞されました。後日、学校に「盾」と「賞状」が届く予定です。届いたら、朝会で紹介したいと思います。後藤さん、本当におめでとうございました。

校区地図はありませんか？

天美小学校では、「令和6年度の校区地図」を探しています。

おうちで使われていない「校区地図」や、町会等でお使いにならない「校区地図」がありましたら、天美小学校に寄付していただけませんか？

もし、「使ってないから寄付していいよ」という方がおられましたら、お子様に持たせていただくか、天美小学校の校長か教頭までお知らせいただけますでしょうか。どうぞ、よろしくお願いいたします。

自己肯定感を育む

自己肯定感を育てる。一言で言ってしまえば簡単だが、実際は本当に難しい。天美小学校の子どもたちだけでなく、日本の子どもたちは「自己肯定感」が低いと言われている。「自分にもできることがある」「自分は自分でいいんだ」と思える自己肯定感をどのように育んでいくのか。

ある子どものつぶやき。「人に言われて嫌な言葉」と「人に言われてうれしい言葉」を思いつくままに書き出す授業。すらすらかける子どももいれば、言われて嫌な言葉ばかりを書き出す子ども、書きたい言葉はあるのにお毛様にかけない子ども等々・・その中に、「うれしい言葉を言われても、裏があるのではないかと思ってしまう」とつぶやいた子どもがいた。この子どもにとっては、それが本音であって、人の言葉をなかなか信じられない。わたしたちはこの子どもが、素直に他人からの言葉を受け止められる子どもに育ってほしいと願い、日々教育に携わっている。

自己肯定感を育てるためには、「肯定」する前に「否定」をやめること。そのためにも、まずは、わたしたちおとなが、子どもたちを「否定」することをやめ、ただただその存在を承認していくことが大切。もちろん、わたしたちおとな自身が自分のことを承認していくことも。

本来、子どもたちは自分で肯定感を伸ばしていく力を持っている。命の大切さはみんな同じ。すべての子どもが「自分は生まれてきてよかった」と自分を肯定し、「どうせ自分なんて」などと自分を否定しまわないようにしていきたいと思う。

子どもたちは、「未来」がいっぱい詰まった希望の塊のような存在。子どもたち一人ひとりの可能性や意欲を引き出すことが、その「未来」につながると信じ日々子どもたちと向き合っていきたい。　（研修会での講演内容から一部抜粋）

大谷選手からグローブが届きました

ロサンジェルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムを紹介するものです。

この3つのグローブは学校への寄付となります。

それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルになることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブを寄贈させていただけることに感謝いたします。

貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平　　《グローブに同封されていたメッセージより　原文のまま》